

日本アメリカ史学会編集委員会よりお知らせ

『アメリカ史研究』への自由投稿原稿の募集

1. 投稿資格

日本アメリカ史学会の会員

2. 制限枚数

論文： 1 ページ 43 字×38 行で 17 ページまで 注・図表を含む（厳守）

研究ノート、研究動向、調査報告等： 1 ページ 43 字×38 行で 9 ページまで 注・図表を含む（厳守）
（英数字は 2 文字で、かな 1 文字と数える。）

3. 期限

投稿申し込み 2007 年 11 月 30 日必着

投稿申し込みにあたっては、問題設定および論の構成、主な史料、研究史を必ず含む形で、全体で 1200 字～2000 字の要旨をまとめてください。

完成原稿の提出 2008 年 1 月 15 日必着

*期限直前に辞退をすることがないように、原稿完成の明確な見通しのもとに慎重に申し込みをして下さい。

4. 注意事項

①投稿申し込みの際に、投稿のジャンル（「論文」、「研究ノート」、「研究動向」、「調査報告」のいずれか）と題目、要旨、投稿者の氏名、所属、連絡先住所、電話番号、E メールアドレスを明記してください。申し込みは下記アドレスにてメールでも受け付けます。投稿申し込みを受け付けた後、編集委員会から確認のメールをお送りします。

郵送先： 〒186-8601 国立市中 2-1 一橋大学歴史共同研究室気付

日本アメリカ史学会事務局

編集委員会 E メールアドレス： editors@jaah.jp

②完成原稿は、編集委員会と外部レフリーが審査し、その結果をすみやかに投稿者に通知します。原稿は横書きとし、印刷したものを 2 部提出すると同時に、メール添付により MS ワードあるいは PDF 形式のファイルの形でも提出してください。

③完成原稿の提出についての詳細は、申し込み受け付け時に連絡します。フォーマット等に関しては、日本アメリカ史学会ホームページに掲載の執筆要項にしたがってください。

『アメリカ史研究』への特集原稿の募集

『アメリカ史研究』第31号の特集原稿を、下記の要領にて募集致します。会員におかれましては振るってご投稿ください。

1. 投稿資格

日本アメリカ史学会の会員

2. 制限枚数

1 ページ 43 字×38 行で 17 ページまで 注・図表を含む（厳守）
（英数字は 2 文字で、かな 1 文字と数える。）

3. 期限

投稿申し込み 2007 年 11 月 30 日必着

投稿申し込みにあたっては、問題設定および論の構成、主な史料、研究史を必ず含む形で、全体で 1200 字～2000 字の要旨をまとめてください。

完成原稿の提出 2008 年 3 月 10 日必着

*期限直前に辞退をすることがないよう、原稿完成の明確な見通しのもとに慎重に申し込みをして下さい。

4. 注意事項

①投稿申し込みの際に、原稿の題目、要旨、投稿者の氏名、所属、連絡先住所、電話番号、Eメールアドレスを明記してください。申し込みは下記のアドレスにてメールでも受け付けます。投稿申し込みを受け付けた後、編集委員会から確認のメールをお送りします。

郵送先： 〒186-8601 国立市中 2-1 一橋大学歴史共同研究室気付
日本アメリカ史学会事務局

編集委員会Eメールアドレス： editors@jaah.jp

②完成原稿は、編集委員会が審査し、その結果をすみやかに投稿者に通知します。原稿は横書きとし、印刷したものを 1 部提出すると同時に、メール添付により MS ワードあるいは PDF 形式のファイルの形で提出してください。

③完成原稿の提出についての詳細は、申し込み受け付け時に連絡します。フォーマット等に関しては、日本アメリカ史学会ホームページに掲載の執筆要項にしたがってください。

5. 特集のタイトルと趣旨 「特集テーマ： 歴史の現場—教育・研究・運動—」

アメリカ史研究第 31 号では、特集テーマ「歴史の現場—教育・研究・運動—」として、「過去」を教える教育の現場に焦点を当て、「過去」に向き合う教育・研究・運動のそれぞれが抱える「歴史の現場」の課題を問い直す。

日本では今年、文部科学省の検定で高校の歴史教科書から沖縄戦の「集団自決」に日本軍が関与したとする記述が削除された問題が、社会問題化した。検定教科書の「過去」の記述をめぐるのは、これまでも大論争が巻き起こってきたが、それは教育の現場で語られるべき「過去」とは何か、研究者にとっての客観的な歴史的真理とは何か、「過去」を経験し記憶する当事者や運動家の人々にとっての過去語りの意味とは何か、それぞれの思いや信念がせめぎあう闘争の最前線であるからである。

E. H. カーは、歴史とは「現在と過去との尽きることのない対話」であるといい、「歴史家と事実との間の相互作用の不断の過程」であるといった。歴史が、ここで指摘されているように、「現在」に生きる私たちの問題意識と切断できないものであるからこそ、「過去」はいくつもの顔を持って立ち現れてくるのである。

歴史教科書問題は、もちろん日本の専売特許ではない。アメリカ合衆国でも Gary Nash らが *History on Trial: National Identity, Cultural Wars, and the Teaching of the Past*(1997)で描くように歴史教科書をめぐる長い歴史があり、指導要領をめぐる闘争があった。本特集では、こうしたアメリカ合衆国の歴史と

教育の現在を見据え、議論の深化を期待したい。以下に示したものは、想定されるテーマの数例である。このほかにも、マイノリティ教育、女子教育、先住民教育、英語公用語論争など、さまざまなテーマからの応募を歓迎する。

- (1) アメリカにおける歴史教科書問題
- (2) 「過去」をめぐる歴史研究者と活動家、教師の間での異同
- (3) 歴史研究における「実証」「客観性」と、記憶論、オーラル・ヒストリー、インタビュー
- (4) 多文化主義論争の現在と歴史教育